



(株) 岐阜造園

岐阜市茜部菱野4-79-1
Tel.058-272-4120

日本唯一 造園専門の上場企業

(株) 岐阜造園 代表取締役社長 小栗達弘さん



平成28年11月、(株)岐阜造園は名古屋証券取引所市場第二部に上場し、造園を専門としている企業では初の上場で注目を集めた。
今回は、(株)岐阜造園の4代目社長小栗達弘さんに、上場したきっかけと2年が経過した今を伺った。

造園職人の地位向上のために

昭和44年、小栗さんが入社した造園業界は、キツイ、キタナイ、キケンな3Kと言われていた職人の世界であった。建設業の下請施工を行った時には、「庭工事に回す予算がないからこの額でやってくれ」と言われることもしばしばあった。

幼少のころより父の背中を見てきて職人の世界に慣れ親しんでいたため、汗水たらして庭を作る仕事に対して、少し軽く扱われる風潮に疑問を感じていた。

「世間の認知度をあげ、造園業の地位を向上するためにはどうしたらよいか」、小栗さんの挑戦がはじまった。

職人集団を企業へと

造園は、人工で作るものをいかに自然に見せるか、という職人の世界。「一人前になるには10年は必要」、「技術は見て学べ」と言われており、さながら旧態依然のギル

いたが、2〜3年間修行した職人には、先輩が後ろでアドバイスをする中で、いちはやく責任者として配置するようにした。

「木は光のある方に伸びていくため、木を全方位からみると一番良く見える角度がある。庭をどこから眺めるかを考え、木の表をどこにしたら最もよいか考えろ」

「景石は、いかに大きく見せるかが肝心で、地面に深く埋めた方が大きいと想像させる場合がある。天端と呼ばれる平らな部分を地面と平行にするとドシツとするが、あえて傾ける場合もある」

「木や石は高さを変えたり、前後に埋めることで奥行きをとること。庭全体のバランスをとりながら配置しろ」

こういった先輩からのアドバイスによって、職人が育つ期間が格段に短縮した。

さらに小栗さんは、職人の労働環境の整備を行った。これらの取組みの結果、職人集団が一般的な企業へと変貌を遂げたのであった。

そして上場へ

造園業者数は、現在約27,000社であるが、工事高の上位は大手企業の系列会社が占めていた。小栗さんは「造園専門企業がもっと情報を発信することで社会的な信頼を得なくてはいけない」と、上場を決意した。

上場準備の中で、管理体制・財務内容・経営企画などの書類に従業員とともに深夜までかけて作成した。証券会社の担当者から社名変更の提案を受けたことがあった。しかし、小栗さんは岐阜に根付いた商いをしているため、「岐阜」の文字を無くす事は考えなかった。

そして、数か月に渡る審査と社長面談を経て、名古屋証券取引所市場第二部に上場が決定した。

下の徒弟制のようであった。そのため、日本全国で造園職人の減少や技術力の低下が問題となっていた。

岐阜造園の初代弥一は、平安神宮神苑を手掛けた京都の植治7代目小川治兵衛のもとで修業をし、その技術は若くして岐阜公園の改修の総指揮をとるなど認められていた。「当社の強みは技術力。父弥一の技術を他の職人に伝えていかなくては。」小栗さんは、職人技術の世界をシステム化する作業に取り掛かりはじめた。

まずは、技術の映像化からとりかかった。これまでは先輩の作業を現場で見て覚えていたが、これでは一瞬を脳裏に焼き付けておかなくてはいけないし、見る機会そのものが限られていた。そこで、熟練職人の作業を撮影し、研修ビデオとして何度も何度も繰り返し見て学べるようにした。

次に、ノウハウの伝承を行った。職人が十数年かけて習得できる技術と作業上の安全対策を「リスク提案書」という形で導入した。これにより、長年かかって修得する技術と経験が共有され、加えて各々が思いついた効率的な方法を提案できるようになった。

そして、現場責任者への早期配置を行った。これまで職人が、現場を任されるまでは5〜6年の歳月を要して

岐阜から全国、岐阜から世界へ

「上場を機に変わったことは、社員のモチベーションがあがったこと、優秀な人材が集まるようになったこと。そして、大手のデベロッパーや設計事務所からの依頼が増えたことです」小栗さんは、社会的信頼度が上がった効果を力説する。

今年、首都圏の展開に注力するために東京事務所の開設を予定している。

昨年11月には、中国・青島で日本庭園を含む大規模リゾートの施設「青島八景」の企画設計を受注し、初の海外展開を行った。

実は小栗さんは、これまで海外には積極的ではなかった。千葉大学の恩師とともにアメリカの日本庭園を見に行った時のこと、「庭の管理状況はひどく、灯ろうは真っ赤にペイントされていました。外国人には日本のわびさびを理解するのは難しい」と感じたからだ。しかし、現在はグローバル化が進み日本庭園への理解が進んで海外でも受け入れられるようになってきた。それを証明するかのように、「青島八景」の中国人施主からの紹介で、新たに上海でのリゾート施設の開発の話が舞い込んでいる。

昨今は、公共施設・病院・工場・街中、とあらゆる施設で環境と癒し空間のために緑化が進められている。

時代が小栗さんの取り組みに追い付いてきた。岐阜造園が、日本の庭のすばらしさを岐阜から日本中さらには世界へと伝えていくのは、まだまだこれからだ。



青島八景の完成予想図